



# Executive Interview

エグゼクティブ  
インタビュー

no. 16

このコーナーは神奈川トヨタのお客様である経営者の方にお話を伺うコーナーです。

大洋石油ガス株式会社・大洋商事株式会社  
代表取締役社長

## 加藤 敬介 様

横浜市栄区に充填工場を持ち、地域のプロパンガスの安定供給を担う大洋石油ガス株式会社と、その直販部門の大洋商事株式会社。ライフラインに欠かせないエネルギー事業にける思いなどを代表取締役 加藤敬介氏にお伺いしました。

### ■都市ガス化が進む中での事業展開

#### ——御社についてお聞かせください。

当社は昭和41年に大洋石油ガス株式会社として設立。プロパンガスの供給の安定化ということで、当時販売店の中で、充填所を所有していた一社に出資することによって立ち上がった会社です。そこの統括責任者として先代である私の父が派遣され事業を行ったというのがスタートです。創業の地は鎌倉市腰越。そこで5年ほど商売をやっていましたが、鎌倉市の再開発で移転という問題が持ち上がりました。これからのプロパンガス事業の発展などを考え、たまたま充填基地の運営管理者を募集していた、ここ横浜市栄区に移転しました。その後直売専門の会社を分離して、大洋商事を設立したのが昭和56年です。

現在、大洋商事の本社1階の一部で、ガス器具及びリフォームに関するショールームを展開しています。創業が鎌倉だったこともあり、顧客も鎌倉・逗子・

葉山・横須賀の方がメインになっていて、横浜エリアの顧客件数が割合的にみても少ないんですよ。

横浜も都心部を中心に都市ガス化が進んできていますので、この地元エリアで何十年と商売をやっている、なかなか認知につながっていないところから、プロパンガスの供給世帯にこだわらずに、都市ガスを使うお客様や、エネルギーを使われているお客様全般に対する器具の販売やリフォームのご提案をしています。

### ■父が見せた経営者の心構え

#### ——お父様から引き継いで社長になられたということですね。

私は元々建設業に興味があり、大学を卒業後、大手建設会社に入社しました。父は当初から会社を継いで欲しいという気持ちがあったようですが、私の希望を優先してくれたのだと思って仕事にのめり込んで行きました。しかし、勤めてから12年ほど経ったある日、ひょんなことから父と喧嘩になりそれがきっかけでお互い

の思いにずれが生じていることが解りました。それから今後についてをじっくり話し合い、一年の猶予をもらって今の会社に就くことに決めました。建設会社での仕事は中学の頃からの夢でもあり、面白くて仕方ありませんでした。会社を継ぐ気など全くなかったのも、父ともめるまではプロパンのプの字も知りませんでした。

#### ——では、1年の猶予期間でいろいろ勉強されたんですか？

そうですね。しかし、僕はこの会社に入ってから、父に仕事のことを教えてもらったことは一切ありません。何にも教えてくれなかった。専門知識の教育係は当時の専務で、机を隣合わせて、3年間つきっきりでガスの知識を叩き込まれました。経営等に関しては、見て覚えろという感じで何にも教えてはくれなかったですね。

その父も今年1月に84歳で亡くなりました。病院のベッドでの彼の立ち振る舞い等を見て、経営者の心構えというか、



# エネルギーのエキスパートとして 街の便利屋でいたい

そういうのを最後の最後に初めて教えてもらった様な気がします。

## ——言葉ではなく振る舞いで、ということですか？

入院して、2週間くらいたった頃には、本人はもう駄目だということには何となく感じていたようで、もう一度だけ社員のみんなにお別れを言いたいと言い出しました。

激痛や苦しきで言葉も出ないような状態でしたが、家に帰りたという様な泣き言は一切言わず、スーツを着てネクタイ姿で社員全員にお別れの挨拶をしようと。最後の最後まで会社に対する思い、執念のようなものを見せつけられた感じでした。その後3週間後に息を引き取りました。

## ■意識改革で時代の荒波を乗り越える

### ——仕事をするうえで大事にしていることは？

何もしないことは絶対にしない。何か行動する。究極の危険というのは、何もしないということだと思います。何もしないで後悔することだけは絶対にしたくないと思います。

### ——では、今やりたいことは何ですか？

まずは社内改革です。今までは目の前に先代がいて事業を引き継いできたわけですが、表向きはこうしたいという自分の理想だとかをぶつけて、喧嘩をしてきただけなのかもしれません。結果、何も変えられなかったような気がします。今までの10年間は、自分の中では失われた10年だと思っています。それを取り戻すためにも本当の意味での改革を進めて行きたい

と思っています。

企業とは「人・モノ・金」とよく言いますが、人が一番。人の意識が変わっていなければ、何も変わらないと思うんです。これから大きく変わっていくであろうエネルギー業界の荒波を乗り越えていくのはとても難しいことで、社員一人ひとり、全員の意識が変わらないと本当の意味での改革にはならないし、本当の意味でお客様に還元することはできないと考えています。とは言っても、過去のものをただ切り捨てるというわけではなく、無責任な若返りというのではない。できる人が仕事をやるべき時代だと思っています。つまり老若男女を問わず、同じ目的意識とベクトルを持った人だったら、どんな人とでも一緒に仕事をやる。その一歩をまず踏み出したいなと思います。

### ——変えるって大変ですよね。

僕らがやるべきことは、事業継続をすることが最善だと思うし、それが自分たちに課せられている責務だと思っているので次の世代にきっちりシフトしていくこと。この会社も、できるならば



## 大洋石油ガス株式会社 大洋商事株式会社

〒247-0013

横浜市栄区上郷町1761番地

(石油ガス) TEL : 045-892-1321 FAX : 045-892-2749

(商 事) TEL : 045-894-2211 FAX : 045-891-0151

フリーダイヤル : 0120-881-321

<http://www.taiyou-group.jp>

未来永劫残せるだけの体制を作った世代にバトンタッチしていくのが自分たちの役割だと考えています。

また、これからの高齢化社会に向けて、私たちに何が出来るか。現在、月に一回保安点検を実施していますが、そういう中でお客様の困っていることに対応できるようにになりたい。例えば電球一つでもご要望があれば取り替えてあげるなど、お客様のためにできることはないかと常に考えて行動するよう心掛けています。地域密着という形での商売を第一に、お客様との接点を強化したいと思っています。

プロパンガスは自由料金で、分散型のエネルギーです。対面商売である特性を生かしたエネルギー産業のエキスパート的な存在になれるべく、エネルギー会社としてその延長線上で何が出来るかということを考えています。街の便利屋さんでありたい。もともとプロパンガス屋さんって、そうやって浸透していったということもあります。原点回帰的なところですかね。

今後どういう風に展開していくかちょっと予測はつかないのですが、とりあえずはあまり先を見過ぎない。足元をしっかり固めながら一步一步、歩を進めて行こうと思います。

できれば今までの枠組みにないような経営者になりたい。これは常日頃から強く意識しています。

### <インタビューを終えて>

とても気さくな人柄で、先代のお父様との逸話や趣味等、たくさんお話していただきました。音楽やファッションが趣味で、スーツの裏地はロックテイストのおしゃれな柄。ここくらいで遊び心を出さないよね、と語るいたずらっぽい笑顔が印象的でした。エネルギーのエキスパートとして枠組みにとられない経営手腕が楽しみです。